

# 「故郷に貢献したい」

## 大震災被災地出身の大学生

### 五島海陽高訪れ 思い語る

東日本大震災の被災地出身の大学生2人が19日、五島市坂の上1丁目の県立五島海陽高を訪れ、2年生の1クラス約20人を前に、被災地の復興や故郷への思いを語った。



被災地復興について話す右から穀田さんと佐々木さん  
＝五島市、県立五島海陽高

訪問したのは岩手県陸前高田市出身で、お茶の水女子大2年の佐々木沙耶さん(20)と、宮城県気仙沼市出身で、東北大2年の穀田龍二さん(21)。一般財団法人教育支援グローバル基金(東京)主催のフィールドワークの一環で、18日から五島市を訪れていた。

穀田さんは、震災で壊滅的な打撃を受けた基幹産業の漁業を盛り上げようと、将来は地元で漁業関係の会社を立ち上げるとの目標を紹介。「皆さんも地元

(後藤洋平)

講話を聴いた木戸りかさ

は「将来の目標がなくて悩

んでいたが、2人の話を聞いて

五島のために何かできないか考

えたいと思った」と話した。

を語った。

た」と語った。

津波で自宅を流

された体験を語り、「以前は田

舎を離れるのが夢だったが、震

災をきっかけに何とか故郷に貢

献したいとの思いが強くなっ

てきた」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。

た」と語った。